

ピクテ・バイオ医薬品ファンド

(1年決算型)円コース/(毎月決算型)為替ヘッジなしコース/(1年決算型)為替ヘッジなしコース

主要バイオ医薬品企業の2025年1-3月期決算と注目ポイント

POINT

- 2025年1-3月期の主要バイオ医薬品企業の決算はまちまちな結果に
- 主要バイオ医薬品企業は、肥満関連や炎症関連、がん関連など期待の新薬候補(パイプライン)の開発状況に注目が集まる

■ 2025年1-3月期の主要バイオ医薬品企業の決算はまちまちな結果に

当ファンドが投資対象とするバイオ医薬品企業の2025年1-3月期の決算内容は、まちまちな結果となりました。

当ファンドの組入上位の銘柄では、アムジェン(米国)が売上高、利益ともに市場予想を上回る決算となりました。一方、バーテックス・ファーマシューティカルズ(米国)、リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国)は売上高、利益ともに市場予想を下回る結果となりました。ギリアド・サイエンシズ(米国)、アストラゼネカ(英国)については、売上高が市場予想を下回った一方、利益は市場予想を上回りました。

引き続き主要バイオ医薬品企業は、肥満関連や炎症関連、がん関連など期待の新薬候補(パイプライン)の開発状況に注目が集まっています。

組入上位5銘柄 2025年5月末時点

	銘柄名	国名	解説	構成比
1	ギリアド・サイエンシズ	米国	HIVやC型肝炎など感染症治療薬の分野に強みを持つパイオニア。新型コロナウイルス感染症の治療薬でも存在感を示す。バイオ医薬品銘柄の中でも安定性の高い銘柄。	8.4%
2	アムジェン	米国	関節リウマチ、骨粗しょう症の治療薬などが主力のバイオ医薬品企業。パイオシミラー(バイオ後続品)にも取り組む。肥満治療薬のパイプラインも注目。	7.6%
3	バーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	嚢胞性線維症治療薬(CF)のパイオニア。CRSPRセラピューティクス(米国)と世界初の遺伝子編集治療の承認を受けたほか、注目の非オピオイド鎮痛剤も承認される。	7.2%
4	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	がん、眼病や慢性炎症などの分野で非常に革新的な治療薬を研究、開発、商品化しているバイオ医薬品メーカー。	6.6%
5	アストラゼネカ(ADR)	英国	がん、循環器・代謝疾患、呼吸器・炎症・自己免疫疾患などを中心に幅広い分野において医療用医薬品の創薬、開発、製造および販売を行う製薬会社大手。	4.9%

※ピクテ・バイオ医薬品マザーファンドの状況です。

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ ギリアド・サイエンシズ(米国)

2025年1-3月期の決算は、売上高が市場予想を下回り、前年同期比では-0.3%の減収となりました。同社の基幹領域であるHIV治療薬(ビクトルビなど)の売上高が前年同期比+6%となったことに加え、肝疾患領域も堅調でしたが、抗ウイルス剤ベクルリーやがん領域が低調となったことが影響しました。一方、1株当たり利益(調整後)は、市場予想を上回り、黒字化しました。

2025年通期のガイダンスについては、売上高が282~286億米ドル、1株当たり利益(調整後)が7.70~8.10米ドルで据え置かれました。

また市場から注目されていたHIV予防薬レナカパビルが2025年6月18日に米食品医薬品局(FDA)に承認されました。

構成比 8.4% (組入1位)

2025年1-3月期決算 売上高が市場予想を下回った一方、1株当たり利益は市場予想を上回る

売上高 66.7億米ドル(市場予想68.1億米ドル) 前年同期比-0.3%

1株当たり利益(調整後) 1.81米ドル(市場予想1.76米ドル) 前年同期の赤字から黒字化

2025年通期ガイダンス

製品売上高 282~286億米ドル(市場予想 284.22億米ドル)

1株当たり利益(調整後) 7.70~8.10米ドル(市場予想 7.58米ドル)

トピック

米国内での研究、製造に110億米ドルの投資上乗せを発表(5月7日)

2025年1-3月期は抗ウイルス薬ベクルリーなどの売上が減少した一方、HIV領域の売上は前年同期比+6%に。営業損益は黒字に転換

FDAが、注目されていたHIV予防薬レナカパビル(年2回接種)を承認(6月18日)

ギリアド・サイエンシズの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2019年12月31日~2025年6月11日

(米ドル)



※配当含まず ※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ アムジェン(米国)

2025年1-3月期の決算は、売上高、1株当たり利益ともに市場予想を上回りました。14の治療薬が前年同期比で2桁の売上高の増加を達成したことが業績をけん引し、売上高は前年同期比+9%、1株当たり利益(調整後)は+24%となりました。なお、2025年の通期ガイダンスについては、売上高、1株当たり利益(調整後)ともに据え置かれました。

引き続きマリタイドなどの肥満治療薬候補(パイプライン)の治験結果が注目されています。

構成比 7.6% (組入2位)

2025年1-3月期決算 売上高、利益ともに市場予想を上回る

売上高 81.5億米ドル(市場予想80.5億米ドル) 前年同期比+9%

1株当たり利益(調整後) 4.90米ドル(市場予想4.25米ドル) 前年同期比+24%

2025年通期ガイダンス 据え置き

売上高 343~357億米ドル (市場予想351.4億米ドル) 据え置き

1株当たり利益(調整後) 20.00~21.20米ドル (市場予想20.67米ドル) 据え置き

トピック

2025年1-3月期は14の治療薬が前年同期比で2桁の売上高の増加を達成

肥満/糖尿病治療薬候補マリタイドは引き続きフェーズⅡ、フェーズⅢの治験が進行中

作用機序が明かされていない肥満治療薬候補AMG513のフェーズⅠを差し止めをFDAが解除

アムジェンの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2019年12月31日~2025年6月11日

(米ドル)



※配当含まず ※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ バークテックス・ファーマシューティカルズ(米国)

2025年1-3月期の決算は、主力の嚢胞性線維症治療薬トリカフタ/カフトリオが好調で、売上高が前年同期比+3%の27.7億米ドルとなりましたが、市場予想は下回りました。また1株当たり利益についても、開発中止となった治療薬候補の減損処理や新薬の販売促進費用などが影響したことから減益となり、市場予想も下回りました。

2025年1月30日に承認された非オピオイド鎮痛剤ジョウルナブクスは4月18日までに2万回超処方されました。また嚢胞性線維症の新しい治療薬アリフトレックも出だしが好調であると報告されています。両治療薬の今後の販売動向と、IgA腎症治療薬候補や1型糖尿病患者向けの膵島細胞の素充填薬候補など多くのパイプラインの開発動向が注目されます。

構成比 7.2% (組入3位)

2025年1-3月期決算 売上高、1株当たり利益ともに市場予想を下回る

売上高 27.7億米ドル(市場予想28.5億米ドル) 前年同期比+3%

1株当たり利益(調整後) 4.06米ドル(市場予想4.32米ドル) 前年同期比-14.7%

2025年通期ガイダンス 下限を引き上げる

売上高 118.5~120億米ドル(従来予想117.5~120億米ドル)(市場予想119.7億米ドル)

トピック

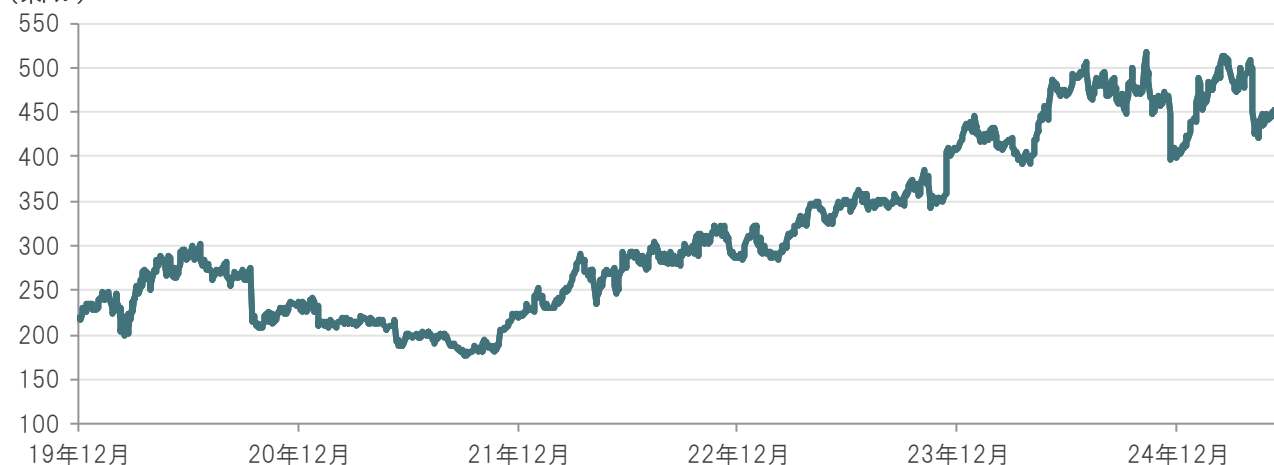
非オピオイド鎮痛剤ジョウルナブクス出だし好調 2025年3月の発売開始以降、2万回超の処方

2024年末に承認を受けた嚢胞性線維症治療薬アリフトレックも出だし好調

2025年1-3月期は、糖尿病の治療薬候補の開発中止による減損処理やジョウルナブクスの販売促進費用、パイプラインへの研究開発投資の増加などが影響し、利益が減少

バークテックス・ファーマシューティカルズの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2019年12月31日~2025年6月11日
(米ドル)



※配当含まず ※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国)

2025年1-3月期の決算は、売上高、1株当たり利益(調整後)がともに市場予想を下回りました。ぜんそく、アトピー性皮膚炎などの治療薬デュピクセント(サノフィ(仏)との共同開発)は好調でしたが、加齢黄斑変性治療薬アイリーアは、高用量製品への移行が進んではいるものの、アイリーア全体(従来品+高用量)の売上が前年同期比で-26%と大きく減少したことが影響しました。

同社の株価は、アイリーアのバイオシミラー(バイオ後続品)を巡る懸念などから、2024年9月以降、下落基調にあります。デュピクセントやがん治療薬リブタヨなどの販売が好調であることや、複数の有力なパイプラインの治験が進行していることなどを考慮すると、引き続き同社は主要なバイオ医薬品企業として注目を集めるものと考えます。

構成比 6.6% (組入4位)

**2025年1-3月期決算 売上高、1株当たり利益ともに市場予想を下回る
デュピクセント好調、アイリーアが不振**

売上高 30.3億米ドル(市場予想32.5億米ドル) 前年同期比-4%

1株当たり利益(調整後) 8.22米ドル(市場予想8.38米ドル) 前年同期比-14%

トピック

個別の治療薬ではデュピクセントが前年同期比+19%、がん治療薬リブタヨが前年同期比+8%

高用量アイリーアは前年同期比+54%となるも、アイリーア全体では同-26%と市場予想を下回る

リブタヨの皮膚扁平上皮癌(CSCC)、高用量アイリーアの網膜静脈閉塞症(RVO)、デュピクセントの水疱性類天疱瘡(BP)、肥満治療による筋肉量の減少を防ぐ治療薬など治験結果は良好

デュピクセントが慢性特発性蕁麻疹(CSU)への使用でFDAから承認を得る

リジェネロン・ファーマシューティカルズの株価推移

米ドルベース、日次、期間:2019年12月31日~2025年6月11日

(米ドル)



※配当含まず ※決算および市場予想はブルームバークのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバークのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ アストラゼネカ(英国)

2025年1-3月期の決算は、売上高が市場予想を下回ったものの、前年同期比では+7%の増収となりました。「タグリッソ」や「イミフィンジ」など主力のがん治療薬は、前年同期比+10%の伸びとなりましたが、市場予想は下回りました。一方、コア1株当たり利益は市場予想を上回りました。なお2025年通期のガイダンスでは、売上高は1桁%台後半、コア1株当たり利益は10%~10%台前半の伸びを予想しています。

同社は、決算発表の際に、今年に入り5つのパイプラインがフェーズ3試験において良好な結果が得られていることと、主要地域・国において13件の承認を得たことを発表しました。

構成比 4.9% (組入5位)

2025年1-3月期決算 売上高は市場予想を下回った一方、コア1株当たり利益は上回る

売上高 135.9億米ドル(市場予想137.6億米ドル) 前年同期比+7%

コア1株当たり利益 2.49米ドル(市場予想は2.26米ドル) 前年同期比+21%

がん領域は+10%の伸び

2025年通期ガイダンス

売上高は1桁%台後半、コア1株当たり利益は10%~10%台前半の伸びを予想

トピック

がん治療薬はメディケア・パートDの価格見直しの影響を受けたものの、米国の全売上に占めるメディケア・パートDの比率は上昇

5つのフェーズ3における良好な結果と主要地域・国における13件の承認を得る

2025年5月20日 生体内細胞療法の先駆けであるEsoBiotec社の買収完了(買収額最大10億米ドル)

アストラゼネカ(ADR)の株価推移

英ポンドベース、日次、期間:2019年12月31日~2025年6月11日



※配当含まず ※決算および市場予想はブルームバーグのニュースなどを基に記載

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、医薬品についてもあくまでも参考として紹介したものであり、その医薬品を推奨するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

投資リスク

[基準価額の変動要因]

- ファンドは、実質的に株式等に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動等(外国証券には為替変動リスクもあります。)により変動し、下落する場合があります。
- したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様にご帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

《全コース》

株式投資リスク (価格変動リスク、 信用リスク)	●特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、平均的な株式市場の動きと比べて異なる動きをする場合やその価格変動が大きい場合があります。また、未上場・未登録の株式の組入れを行うこともありますが、これらの株式は流動性が上場株式に比べて著しく劣る場合があります、価格変動が極めて大きい場合があります。 ●組入れた株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。
--------------------------------	--

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》

為替変動リスク	●ファンドは、実質的に外貨建資産に投資するため、対円との為替変動リスクがあります。 ●円高局面は基準価額の下落要因、円安局面は基準価額の上昇要因となります。
---------	---

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》

為替に関する 留意点	●ファンドは、実質的に外貨建資産に投資するため、対円との為替変動リスクがあります。ファンドは高位の為替ヘッジ比率を保つことで為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジが行われない部分やオーバーヘッジとなる部分が発生すると考えられます。したがって、部分的にはありますが、為替変動の影響を直接受けることが想定されます。 ●為替ヘッジを行う場合には、為替ヘッジを行う通貨の金利と円金利を比較して、円金利の方が低い場合には、当該金利差相当分の為替ヘッジコストがかかります。なお、為替ヘッジを行うことによって、為替変動の影響が完全に排除できるとは限りません。
---------------	--

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

[その他の留意点]

- ESGを考慮し銘柄を絞った選定を行いますので、平均的な株式市場の動きと比べて異なる動きをする場合やその価格変動が大きい場合があります。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

ファンドの特色

＜詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください＞

《全コース》

- 主に世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資します

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》

- 原則として為替ヘッジを行いません

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》

- 原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》

- 毎月決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います

- 毎月13日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》

- 年1回決算を行います

- 毎年4月13日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

ー分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

ー収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託会社が決定します。また、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

ー留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※ファミリーファンド方式で運用を行います。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

[収益分配金に関する留意事項]

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

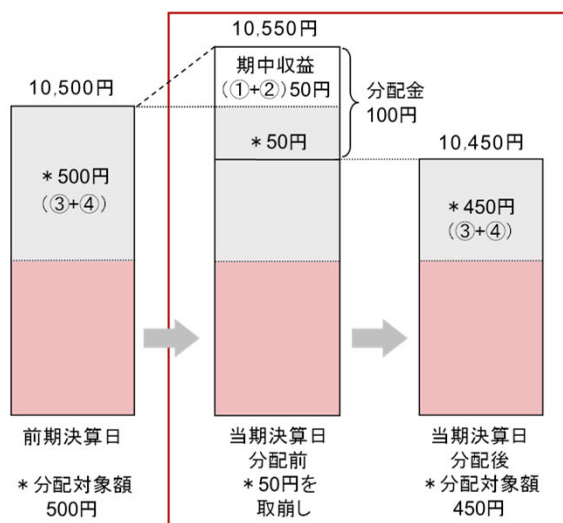
投資信託で分配金が支払われるイメージ



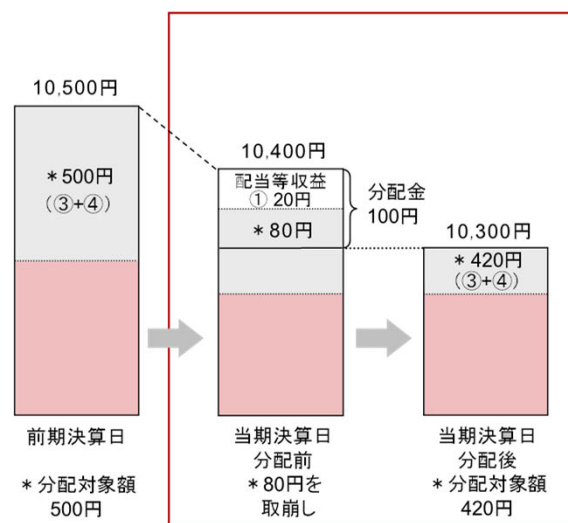
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

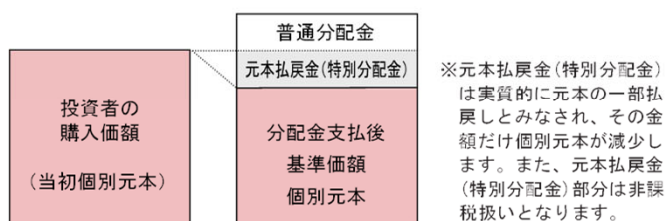


(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

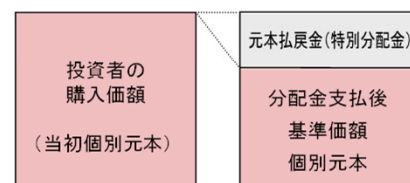
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、「手続・手数料等」の「税金」をご参照ください。



手続・手数料等

【お申込みメモ】

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日においては、購入・換金のお申込みはできません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》 2004年10月29日(当初設定日)から無期限とします。 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》 2017年1月18日(当初設定日)から無期限とします。 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》 2000年4月14日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	各ファンドにつき、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》 毎月13日(休業日の場合は翌営業日)とします。 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》 毎年4月13日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》 年12回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》 《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》 年1回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

【ファンドの費用】

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	3.3% (税抜3.0%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。 (詳しくは、販売会社にてご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年 2.09% (税抜1.9%)の率を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。配分は次のとおりとし、委託会社と各販売会社の配分は各販売会社の取扱い純資産総額に応じて計算するものとします。			
	【運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)】			
	各販売会社の取扱い純資産総額	委託会社	各販売会社	受託会社
	300億円以下の部分	年率1.0%	年率0.8%	年率0.1%
	300億円超の部分	年率0.9%	年率0.9%	
なお、委託会社の運用管理費用(信託報酬)には、マザーファンドの運用指図に関する権限の委託先に係る投資顧問会社への報酬が含まれています。				
その他の費用・ 手数料	毎日計上される監査費用ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)は、そのつど信託財産から支払われます。			

※当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

【税金】

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税 および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して 20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税 および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して 20.315%

※少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※上記は、当資料発行日現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。



委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図を行う者) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会	【ホームページ・携帯サイト(基準価額)】 https://www.pictet.co.jp
受託会社	株式会社りそな銀行(ファンドの財産の保管および管理を行う者) 〈再信託受託会社:株式会社日本カストディ銀行〉	
投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド、ピクテ・アセット・マネジメント・エス・エイ(株式の運用指図を行う者)	
販売会社	下記の販売会社一覧をご覧ください。(募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払いを行う者)	

販売会社一覧

投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース》

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
SMBC日興証券株式会社(ダイレクトコース専用)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三証券株式会社(岡三オンライン専用)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
東海東京証券株式会社(注2)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社常陽銀行 (委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース》

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○		



販売会社一覧(つづき)

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
東海東京証券株式会社 (注2)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社常陽銀行 (委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

《ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース》

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
株式会社SBI証券 (注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
東海東京証券株式会社 (注2)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社常陽銀行 (委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様の投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様に帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。